

令和7年度 蓮田ブランド推進協議会第1回会議録

開催日時	令和7年11月20日（木） 午前9時30分～11時30分	
開 会 場 所	蓮田市役所 202 会議室	
委員出席状況	会 長 嶋田 清司 副会長 小林 謙二 委 員 小林 央承 （欠席） 委 員 田口 桐子 委 員 加藤 達雄 委 員 岡田 幸典 委 員 西村恵美子 委 員 時光 一郎 委 員 今野 雅崇 委 員 初野 尚久	（蓮田市） 加藤 繁 副市長 松永浩美 産業振興課長 倉田正彦 産業振興課主幹（司会） 星野抄織 産業振興課主事
会議内容 1 開 会 倉田産業振興課主幹司会進行（午前9時30分から） 2 委 嘱 加藤副市長より新たに委員となった3名に委嘱書を交付 3 副市長あいさつ 4 自己紹介 委員9名、職員4名 5 会長あいさつ 6 議 題 「昨年の協議内容について」「今年度の協議について」「その他」について 事務局の資料説明後、昨年度の協議内容をもとに今年度の協議の進め方について意見交換。 ●●委員：昨年から参加。名所旧跡巡りや酒蔵見学に参加し、蓮田市の知らなかった魅力をこの会を通じて知った。農商工連携推進協議会として黒浜南小学校の総合学習の授業に協力。昨年の発表で「とかいなかNo.1」のキャッチフレーズ使っており、子供たちに浸透していると感じた。今年も同じ授業を行っていて、さくらまつりで子供たちが授業で提案した商品（食品）を実際作って販売予定で、現在打ち合わせを行っている。子供たちの活動を後押しするような、コラボしていくような取り組みを行っていったらいいと思う。 ●●委員：平成30年に発足した第1回の会議から参加している。特産品呉汁レシピを決めるコンテストにて、発案から最終審査の表彰まで4年かかっている。また、「とかいなかNo.1」のキャッチコピーの決定まで5年もかかった。蓮田市の人口が減少する中、人口を増やすような魅力を見つけるのは本当に大変である。また、この協議会について、ゴールを決めずに進めるのも迷うのである。		

- 委員 : 「とかいなかNo.1」のイメージを具体化するものが必要。その自治体の生活は、歴史風土に根差したものであり、且つそれを活かしていくのはどうかと思われる。昨年度バスで市内の名所旧跡巡りに参加した。地域に根差した活動を共有する場を設け、蓮田の魅力を見つめ直す場の提供をするのはどうか。
- 委員 : 昨年度の会議の際、SNSでの発信があったかなと記憶している。SNSで何かを発信することが、やはり一番、効果的だと認識し、名所旧跡を動画にし発信していくのが良いと思った。また、「うたやん」のような楽しいキャラクターを利用し、面白おかしい動画や真面目な発信もよいが、型にはまった形でやると多分皆さん食いつかないので、エンターテインメント的なSNSの発信の仕方もありかと思う。
- 委員 : 事前資料を見て、ターゲットが明確になっていない。何かするとき、ターゲットを絞らないと具体的にアピールする内容が見えてこないで、その辺を皆さんで統一した方がよい。どれか一つに決めるよりも、小学生をターゲットに、何が目的で、どういう内容コンテンツだとはまるのか。またSNSであれば、どこをターゲットにしたSNSのコンテンツにするのか、それをどのように拡散するのか全体的な設計が必要。
- 委員 : 前任者から、呉汁コンテストがコロナ禍でなくなったと伺っている。小学校の取り組みの中で、洋風呉汁を給食で提供することにより、やはり地元人に（郷土料理・呉汁を）知ってもらおう。呉汁に関してはレシピコンテストだけではなく、「蓮田スープ祭」、「これを使ったら蓮田スープとして認めます」みたいなスタンプラリーをする。
- 委員 : 「とかいなかNo.1」というキャッチコピーだけで発信していくのが一番良い。ターゲットを絞っていくのが重要。「とかいなかNo.1」はすごく良い言葉だが、聞いたときのイメージを分かりやすくした方がいいと思う。「とかいなか」を自称する自治体はたくさんあるが、これがナンバーワンとはっきりと、わかりやすく伝えたほうが良いと思う。
- 委員 : 昨年度の議事録通り、「とかいなかNo.1」を掘り下げるというところまでは昨年度に決まっている。「とかいなかNo.1」を使って蓮田の良いところを発信していければよろしいのではないのかと思っている。この議事録にも書いてある通り、一つの物や、商品に偏り過ぎてしまうと、このブランド協議会としてはよろしくないということで、そちらの方は私達観光協会がしっかりと担っていければと思う。もちろん、私達の団体では何ができるだろうということも含め、情報交換しながら進めていければ良いかなと思っている。また、過去の議事録の中で「とかいなかNo.1」のタスキを作ったらどうかということが書いてあるが、これはすぐに具現化できるようなところだと思うので、ブランド協議会の方で進めていければよいのかと考えている。
- 委員 : ターゲットが絞れていないので、ゴールに近づけないというところが本当にジレンマである。実は「とかいなか」という言葉をネット上で検索をすると、かなりの数が当たる。ただ「ナンバーワン」って言っているところはないので、言ったもの勝ちで言うと、もう既に蓮田が一番なのかなみたいな勝手な自己満足を持っている。ただ●●委員が言った通り、何をもってナンバーワンということは一切発信していない。前の会議のときこう口走ったことがあったが、「とかいなか」という文言を名乗っている、あるいは発信しているところだけでもい

くつかあるが、そちらの皆さんに例えばお声掛けをして、どういう形で「とかいなか」を考えてらっしゃるのかとか、今後の「とかいなか」を使ってどういうふうな展開をしていきたいのかとかいうことを、我々も含めて勉強会みたいなのを開けないかと考えた。

- 委員 : サミット(勉強会)をするにしても、活動を進めていくなら、やっぱりSNSとかの発信があった方がいいと思う。
ブランド推進協議会が前面に出るのがよろしくないのであれば、市の公式SNSとかそういうところを通じ発信していけたら良いと思う。ちなみに蓮田市公式SNSは何があるか。

事務局 : 広報広聴課の運営で、はすぴい公式X、蓮田市公式Instagram、蓮田市公式Youtubeがある。

- 委員 : どのくらいの頻度で更新しているのか。

事務局 : (広報広聴課に確認して次回回答)

- 委員 : 私の去年の議事録のメモ書きでもやはり呉汁の発表の場がないことが書いてあり、やはりそれを広めていけたらいいなと思った。
蓮田市も「とかいなかNo.1」を前面にしたイベントで、多く人来てもらえるイベントが作れたらいいなと思った。

- 委員 : 蓮田市内を回り、非常に面白いことがいっぱいあるというふうに思った。印象に残っているのは縄文の遺跡。「とかいなかNo.1」を発信していくにしてもストーリー性が重要になると思う。

- 委員 : 発信するというのはやはり大事であるが、ターゲットや発信場所が、市役所の公式ページにこだわらず、観光協会のホームページやXを使って発信するなど、市と同時に発信するのでも良いのかなと思った。

- 委員 : ちなみに「とかいなかNo.1」が決まり、記者発表とかそういうビジネス向けに発表は行ったのか？

事務局 : プレスリリースのみ行った。

- 委員 : 行政でこういうのをやるときは、大体こういうので決めて何か事業を新しく始めるというのがセットだが、予算は特に考えてないということか。

事務局 : 例えば何か決まったので、観光協会の方にそういう提言をし、観光協会の方でそれを盛り上げていただくとか、広報広聴課の方に、ブランド推進協議会でこういうことが決まりましたという提言を出すとかそういったことは、ブランド推進協議会に予算がなくてもできる。以前はスープレシピコンテストだとかそういういった場合に、コンテストを開く予算とかは多少はあったが、今現在はそういういった予算がない。

- 委員 : 事業をやるには、手法としては記者発表である。メディアに対して記者発表し、例えばイベントをやるでも良いし、「とかいなかNo.1」を利用して何かやるとかっていう発信をするときに、記者クラブに資料提供して新聞にぜひ書いてくだ

さいっていうことをする。あとはお金がないならないなりにコラボとかそういう形で、何か一つのテーマで、皆さん一緒に取り組んでいきませんかというふうに声をかけて、お金は出せないけど、人が出せるとか、アイディア出せるとかということがあると思う。また、先ほどの記者発表の話ですけれども、「とかいなかNo.1」って言ったときに絶対聞かれるのが、何がナンバーワンなのか、何が他にないかっていう判断はどこにあるのかとか、「とかいなかNo.1」っていうふうに決まりましたよっていうふうに記者発表するときに、記者から必ず聞かれそうなものっていうのはやっぱりいくつかある。何がナンバーワンなのか非常に抽象的で差別化しづらいところなので、そこが説明できないと「とかいなかNo.1」の発信がしづらい。

●●委員 : この協議会は、この会議で何かをやるっていうのではなく、意見を出して、その関係するところに、こういうのどうですかっていう提言をする会という認識か。

事務局 : 委員の皆さんの方で意見をどんどん出し合っていて、この協議会でどうしてもやりたいということがあれば、事務局から財政課に予算を要求するという形になる。あくまでも提言だけがこの会議の目的ではないので、いろんな意見を出し合って決めていただければと思っている。

●●委員 : 名所巡り、どこが一番推しなのか決めた方が良いと思う。あとその他に何をもって「とかいなかNo.1」かという話がでたと思う。人口を増やして税収を増やすってお話が出たので、それにはやはり、蓮田市に住んでいただくメリットが何かっていうところを押していったら良いのかなと思った。

●●委員 : 「とかいなか」という言葉を聞いて少し考えたが、比較的定住を目的に使っているところは「都会に近い田舎」ということで使っているが、でもその中では蓮田が一番「とかいなか」だ。
あと、逆にお金がないことを逆手に取ったPRも面白いと思った。

●●委員 : 黒浜貝塚のような史跡や、黒浜沼のような自然が残っているのはPRすべきところではあるが、保全を意識すると逆に人に来られると困るという部分もあるようである。しかし、はすだ観光協会としては素晴らしい場所があるっていうことをPRして、蓮田市の良いところを皆様方に発信できればと思っている。
SNSについては、市や行政がやると面白くない（逆に面白いと炎上する可能性がある）ので、民間であったり、観光協会だったりがちょっとおもしろおかしく展開していった方が、見る人も増えていくのかなと思う。実際に伊奈のバラ祭はインフルエンサーを使って発信しているので、予算があればそういうことも可能ではないかなと思ってはいるが、そういったことが難しいので、皆さん方に知恵をお借りしながら、この協議会を進めていくような形になっていくのではと思う。

●●委員 : ●●委員さんから家賃の話があったが、これは特定の動画なのでそれが正しい情報かわからないが、あるYouTubeのチャンネルで、埼玉県内の駅ベースで家賃と新宿・東京までの距離と住環境等を考え合わせて、数値化したランキングに、蓮田駅を利用すると、埼玉県内第2位だった。新宿にも乗り換えなし、東京駅にも乗り換えなし、そして、東京までの時間が同じくらいの自治体と比べて家賃相場が安い。それはアピールポイントだと思う。
ただ、そのようなアピール動画等を作っても、結局は発信方法問題にたどり着く。皆さんからもSNSの発信の話が出たので、例えば市の広報広聴課がどのぐ

らの頻度で SNS を更新しているのか等を宿題として事務局に調べてもらい、次回の会議の際はオブザーバーとして広報広聴課職員に出席いただければと思う。

(3) その他について

事務局より次回の会議日程（12 月 22 日）、について案内。

7 閉 会 小林副会長の閉会挨拶により閉会（午前 11 時 30 分）